

おかげさまでTOEFLテスト日本事務局30周年、TOEFLメールマガジン10周年

TOEFL メールマガジン VOL.100

September 2011

いいね! 0 シェアする

## For Lifelong English

» [バックナンバーはこちら](#)

様々な世代の人々が様々な場で、生涯を通して何らかの形で英語にかかわって仕事をしています。英語は人それぞれ、その場その場で違います。このシリーズでは、英語を使って活躍する方にお話を聞き、その人の生活にどう英語が根付いているかを皆さんにご紹介し、英語の魅力、生涯にわたる楽しさをお伝えしていきます。英語はこんなに楽しいもの、英語は一生つきあえるもの。ぜひ英語を好きになってください。

## 第43回 For Lifelong English

- 嘉悦大学 学長 加藤寛先生に大学改革のお話を聞く その2



## 加藤 寛先生プロフィール

大正15年、岩手県生まれ。  
経済政策の理論と実践における日本のリーダーとして、国鉄を始めとする3公社の民営化に携わるとともに、10年にわたり政府税制調査会会長を務める。  
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス開設準備に関わり、1990年初代総合政策学部学部長に。  
その後1995年から12年間、千葉商科大学学長を務め、両大学において“カトカン”と親しまれ、大学改革を進めた。  
2008年4月、嘉悦大学学長に就任。



## 聞き手：鈴木 佑治先生

立命館大学生命科学部生命情報学科教授  
慶應義塾大学名誉教授

## 今月号の更新ページメニュー

▶ 今月の目次

## 今月のおすすめトピック

- ▶ 10周年記念キャンペーン
- ▶ ETSからのメッセージ

## TOEFL iBT情報

- ▶ TOEFL iBT体験レポート

## 読み物

- ▶ For Lifelong English
- ▶ 言葉の玉手箱
- ▶ 俳句で一息 Haiku Time

## 留学／英語学習情報

- ▶ 達セミに学ぶ英語学習のヒント
- ▶ My Phrase My Word

## オフィシャルサイトへ

- ▶ TOEFLテストトップページ
- ▶ TOEFLテスト教材ショップ
- ▶ TOEFLテスト ITP
- ▶ Criterion

WEBマガジンへ

WEB MAGAZINE



英語で実践!

世界約 30 か国で  
海外短期ボランティア

## 大学改革ということ

**鈴木佑治先生：** 加藤先生が慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（以下SFC）の総合政策学部長としてご活躍の頃、すでに土光改革などいろいろな改革をされた後ですから、これからはいよいよ大学の改革だということをお考えになったと思います。それは今でもお変わりになっていないのではないのでしょうか。

**加藤寛先生：** そうですね。今できることは大学の改革しかありません。

**鈴木佑治先生：** 大学が変わらなければ、優秀な人材が出てこないですね。

**加藤寛先生：** 全くその通りです。大学改革は経験して分かるんですけれども、いくつかの段階があります。例えて言うなら、まず「新幹

線大学の改革」。これが一番やりやすい。これは、どんな土地をつかって、どんなふうに学校を作っていくかということ、自由にさら地に作るのと同じように、自分で新しい建築ができます。そういう意味で非常にプラスの改革です。問題は次の「在来線大学の改革」です。これは古い歴史をもった先生がおられて、この先生が自分のやり方が一番いいと思い込んで、それを主張される。つまり自由な教育ができないですね。別の言い方をしますと、在来線大学の改革というのは、古い駅弁を名物かのように思って一生懸命売るんです。もちろん、中には美味しい駅弁もあって、それはそれなりに特色がありますが、全体として古い弁当が多い。いろいろなおかずを寄せ集めて入れれば、これで教育ができていると思っている。こういうばかばかしい教育をしていたら、全然前に進めません。



- 鈴木佑治先生：** 駅弁改革とは、今まであったものを全く変えず、寄せ集めて形だけ変わったように見せる改革ということですね。
- 加藤寛先生：** そう。この在来線大学の改革が一番難しい。在来線改革は、やればやるほど、そんな新しいことをやったらかえってだめだよなんて言われて、続けていくのが大変です。だから寄せ集めの駅弁改革になってしまうことが多いですね。そして、三番目が「トロッコ大学の改革」です。この嘉悦大学もそうですが、まだ運転手もいないトロッコです。まわりの景色は美しいけれど、それだけでは勉強にならない。だからトロッコ大学はまず駅弁大学になって、それから新幹線大学になるべきだと思います。だけどそれもなかなかできず、浮き上がるのは本当に難しいと思っています。
- 鈴木佑治先生：** 加藤先生の言う新幹線大学はどこでしょうか。
- 加藤寛先生：** やっぱり慶應義塾大学や立命館大学でしょうか。寄付金が多かったり、兵庫県から30億円をポンともらったり、といったこともあるのですが。あれは成功している例の新幹線大学ですね。大体の大学は、苦しんでいる在来線大学ですよ。
- 鈴木佑治先生：** 加藤先生はSFCの後に行かれた千葉商科大学でも改革を実施され、改革された部分は今もしっかり残っていると思います。
- 加藤寛先生：** いやあ、新幹線ではなく在来線大学の改革は、なかなか難しかったですね。語学まで手がまわらない。
- 鈴木佑治先生：** 加藤先生が以前おっしゃって、とても印象に残っているのは、「学生は未来からの留学生だ」という言葉です。未来からの留学生に対して、私たち教師は責任を持てるのか、ということだと思います。今我々が持っている知識をいくら教えても、それは未来には通用しない。ですから、その言葉を今でも立命館大学でモットーにさせていただいています。
- 加藤寛先生：** それは立命館もよくなるね（笑）。今の先生たちは自分の過去を教えようとするんですが、過去を教えてもらってもしょうが

ないですね。だから本当に未来を教えるというのは、SFCが原点だったんですね。

**鈴木佑治先生：**でも新幹線大学の改革の機会など、そうそうないですよ。これから日本の教育が停滞してしまうと非常に困ります。

**加藤寛先生：**困りますよ。経済学でノーベル賞の学者がなぜ日本から出ないかという、それは外国に行かないからです。自分の考えていることを外国人にわからせる英語の能力がなければ、絶対にノーベル賞はもらえない。そういう意味で、日本の経済学者は外国に行かないので、なかなか日本人の考え方をわかってもらえない。その点、理工系は、みんなアメリカに行きますから、そこで新しい勉強もして、英語で日本をどんどん知らしめていくことができるんですね。



---

### 日本人にとって必要な英語教育とは

---

**鈴木佑治先生：**すると、日本人にとって英語教育はどの程度必要で、どうしたらいいと思われませんか。

**加藤寛先生：**英語は必要でしょね、[TOEFLテスト](#)をやればいいんですよ。トロツコ大学も、TOEFLテストだけをやればいいということを自覚する。これが重要です。英語教育でこれをやったほうがいい、あれもやったほうがいい、文法もこうだなんて言っていたら、すべてできなくなってしまう。そんなことよりはむしろ、TOEFLテストを一生懸命やっていれば、それで充分英語の力ができてくるという時代になってきた。

**鈴木佑治先生：**加藤先生は以前にもセンター試験のことをおっしゃっている時に、TOEFLテストを引き合いに出しておられましたね。年に1回の一発試験で、右も左もわからない高校生の人生を決めてしまうのは、非情だと。

**加藤寛先生：**そう、あのやり方は間違いです。体が冷えちゃいけないと親がうどんを作って持ってくるような冬の寒いときに試験するなんて大間違い。好きな時、体調のいい時にテストを受けるというTOEFLテストのような教育技術が、英語の国で発達したというのは偉いもんだなあと思います。自分のことをあれだけ改革していけば、いい改革ができるでしょう。それと、教えることを自分で考えず、ただ適当にテキストを決めてやればいいのか

考えていない教師の授業は、英語教育ではないですね。自分のことをしゃべれるようにならなければ英語じゃない。

**鈴木佑治先生：** ええ、そんなものは英語教育ではないですし、経済的に見ても、人の話すことを聞くだけでは単なる「消費者」になってしまいます。自ら発信する「生産者」にならなければ。

**加藤寛先生：** そうそう。

**鈴木佑治先生：** 生産者は自分が何を考えているのか話さなければいけないし、どういうものを作りたいか、作ったか、売りたいか、発信しなければならぬわけですね。そう考えると、やっぱり、英語は学力というより、話したいという気持ちを起こさせるようにすればいいと思うのです。

**加藤寛先生：** どんなに貧弱なボキャブラリーであっても、それを使うことができるということが重要です。例えばハーバード大学のマイケル・サンデル教授が、日本でも「ハーバード白熱教室」という講義をやりましたね。あれを見ていると、「君、どう思う？」とよく聞いていますね。するとあそこに来るような人はかなり勉強しているから、みんな日本語だったら答えられるけれど、英語だと答えられない。英語で答えられないとなると、もう半分も話をしていないということになってしまう。だからこういうのはおかしいのであって、どんな幼稚な英語でもいいから、Bad とGood を区別して話ができるような人間を作らなければなりません。人間は実際、本当に関心を持てば、専門用語も覚えていくものです。

#### 鈴木佑治先生の後記

加藤先生からはこれまでに多くのことを教えていただきましたが、実学がそのひとつです。言いかえれば「役に立つ」ということでしょうか。私に与えられた課題は、役に立つ英語教育です。道半ばですが、私なりにその目標に向けてなんとか精進したいと考えております。久しぶりに加藤先生とお会いできて、この思いを強くいたしました。

- 「嘉悦大学 学長 加藤寛先生に大学改革のお話を聞く」 - 全3回  
99号- [「嘉悦大学 学長 加藤寛先生に大学改革のお話を聞く」 その1](#)  
101号- [「嘉悦大学 学長 加藤寛先生に大学改革のお話を聞く」 その3](#)

[▲このページのトップへ戻る▲](#)

TOEFLテスト日本事務局  
<https://www.etsjapan.jp/>

[プライバシーポリシー](#) | [お問合せ](#) |

上記は掲載時の情報です。予めご了承ください。最新情報は関連のウェブページよりご確認ください。

(c) ETS Japan, All Rights Reserved.